

可茂農林事務所の普及活動状況 令和6年4月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者の育成 JAめぐみの就農塾が開講

JAめぐみの就農塾の開講式が4月18日、JAめぐみの本店2階大ホールで開催された。就農塾は、中濃管内で就農を目指す塾生が1年間にわたって農産物の栽培技術や農業経営の基礎知識を身につけるために行う研修で、JA営農指導員や農林事務所の普及指導員が教える座学に加え、実際に農業を専門的に実践している農業者によるほ場での指導が受けられるとして人気となっている。

今年度の受講者は、さといも3名・なす7名・栗6名の合計16名で、内11名が可茂管内から参加する。当日は農林事務所職員も出席し、開講式のあいさつで塾生を激励するとともに、その後に開催された各コース別学習で支援にあたった。

今後、年間10回程度の研修を受講、研修後は就農して生産組合への加入や直売所への出荷を目指す予定であり、農林事務所も各コースの講師等として就農塾を支援していく。

(農業普及課長)



【JA関係者と塾生による記念撮影】

■青年農業士・4Hクラブ 総会・意見交換会

可茂地区青年農業士と可茂地区4Hクラブは4月10日、美濃加茂市内において、総会と意見交流会を開催した。

当日は、青年農業士2名と4Hクラブ4名の計6名が出席し、令和5年度の事業報告及び、令和6年度の事業計画、予算について審議された。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、活動を再開し、両組織合同で会員の作物を用いた意見交換会や農業大学校等の視察研修を行ってきた。出席者から、「ふだん生産者が聞くことのできない消費者目線の意見が出され参考になった」との感想や、「現場学習機関の指導内容や学生プロジェクトが勉強になった、今後も交流を続けたい」などの意見が出た。

今年度は県内外の視察研修会を実施し、会員の知識、技術、経営力の向上を行うとともに、新規加入者の勧誘を目的とした意見交流会を検討しているため、農林事務所は今後も、生産者や関係機関と連携した支援を行っていく。

(地域支援第二係)



【視察研修の様子】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■小麦・担い手農家 小麦出穂後防除による赤かび病対策を徹底

可茂管内では令和6年産小麦が美濃加茂市、富加町、御嵩町の7経営体で37.7ha作付けされている。

昨年11月中旬に播種された小麦は、平年並みの4月中旬に出穂を迎え、農林事務所ではJAや生産者へ出穂状況や出穂後の2回防除の徹底へ向けた情報提供を行った。防除は4月下旬～5月上旬に管理機や、一部ドローンによる業者委託で実施された。今後は、防除後の赤かび病の発生状況確認や、成熟期の情報提供を行い、高品質な小麦生産の支援を行う。



【ドローンによる赤かび防除】

(地域支援第一係)

■水稻 (可児地域) 実証ほ検討会

4月19、23日にJAめぐみの可児営農経済センターにおいて、JAめぐみの水稻担当者と今年度の水稻実証ほ設置に向けた検討会を開催した。

令和5年度の可児地域の主力品種「ほしじるし」は実単収400kg/10a程度と、多収米にもかかわらず収量が少ない結果であったため、今年度は「ほしじるし」の収量向上に向けた実証ほの設置について検討した。また、JAが取り組む環境負荷低減対策等の試験展示ほを行うにあたり、取り組まれるモニター試験等の内容を確認した。



【検討会の様子】

今後、農林事務所はJA担当者と連携して、生育調査・収量調査を実施、技術の確立を進めていく。

(地域支援第二係)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■ナシ 開花状況と人工授粉用の花粉の確保

農林事務所が行っている調査では、美濃加茂市山之上における今年のナシの開花期(満開)は、豊水が4月10日、幸水は4月12日で、平年に比べ、豊水が1日、幸水は2日早くなった。

ナシの安定した着果には、人工授粉が有効であり、花粉の確保が必要となる。山之上では、受粉用の花粉を自分で採取している生産者が多いものの、一部は輸入花粉を購入していた。しかし、現在、中国で火傷病の発生が確認され、花粉の輸入が停止されることになったため、山之上果実農業協同組合では、新たに葯採取機2台、葯精選機2台を導入し、多くの生産者が花粉を採取できるようにした。各生産者は各自採取した花を持ち込み、これらの機械を利用し、花粉の調整を行い人工授粉用の花粉を確保することができた。



【ナシ 葯採取機】

(園芸産地支援係)